

## 第95号正誤表

雑誌名	集刊東洋学
巻	95
発行年	2006-10-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00132625">http://hdl.handle.net/10097/00132625</a>

## 清末江西における公共事業と都市の変容

——建昌府南豊県を事例として——

大阪市立大学大学院 辻 高広

本報告は清末江西の一都市における公共事業の分析を通じて、都市に住む人々がいかにかに社会的変化に対応し、都市がいかなる機能的変容を遂げたのかを考察するものである。

江西という地域は早くから贛江流域を中心に開発が進められ、明清時代には広東、福建などの沿海諸都市の発展とともに、商品流通の大動脈である長江とこれらの諸都市を結ぶ南北交通の要衝としても認識されるようになった。だが、一方で江西は贛江流域の平野部を除いて、その領域の多くを山岳地帯が占めて生産性に乏しく、また、商品輸送の中心が河運から海運に移行していくに至って、清末にはその経済的な優位性をも失っていた。江西省がこのような状況におかれていた光緒十一（一八八五）年、江西省建昌府に属する南豊県で一連の公共事業が実施された。南豊県は江西省東部の山岳地帯に位置して生産力に乏しく、また贛江からも外れていたために、経済的にも西部の諸都市に比べて出遅れることとなった。このような南豊県にとって流通の拡大によって経済的利益を獲得することは必須であり、当該時期における公共事業はまさにこのような目的の下に行われたものであった。交通路の整備とその治安維持を柱としたこの事業においては、知県主導の下、保甲局を事業資金の徴収からその運用、事業の施行に至るまでを統括する執行機関として事業の中核に据え、県内の知府、知県レベルの地方官僚経験者をその運営管理に当たらせた。これは保甲制による地域管理体制を事業の実施に転用させるとともに、事業より地方行政に不可欠な存

在でありながら、苛烈な収奪によって事業遂行に支障をきたしている胥吏を排除することを目的としたものであった。このような胥吏を排除した新たな事業モデルを構築することによって、ようやく人々よりの支持を取り付け、事業を遂行することが可能となったのである。

95号正誤表

頁	段	行	誤	正
表紙 表紙 表紙	目次 目次 目次	5 6 9	【光世音心験記】の比較検討から 山崎 諸葛亮	【光世音心験記】を中心として 山崎 諸葛亮
33 上	上	12	沙門之為道也。	沙門之為道也、
138 上	上	13	思学思想	史学思想
138 中	中	15	東洋近世史	東洋古代中世史
139 中	中	27	宗教学…山田教授	削除